

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 南毛利小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 高峰 裕子

学校教育目標	学校経営の方針
大楠の木のもとで より良く深く考えて やさしく あかるく たくましく生きる子をはぐくむ	<p>[目指す学校の姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○すべての子どもに学びを保障する学校</li> <li>○安心・安全で笑顔の絶えない学校</li> <li>○個性を尊重し、個々の能力を最大限に伸ばせる学校</li> <li>○共に学び、励み合って共に育つ学校</li> <li>○小中9年間をつなげて学べる学校</li> </ul> <p>[大切な考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○主役は子ども、支柱は教職員</li> </ul> <p>[行動指針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○経営推進 - 想像力と創造性の発揮</li> <li>○教育活動 - つなげて伸ばし、学びを拓く</li> </ul>

今年度の重点目標

【自律と共生】 【命はひとつ】

- 学習指導要領の趣旨や内容の確実な実行/保護者や地域の方々と共に学ぶ場の進化
- 確かな学力のより一層の向上(学習指導の充実)
- 共に学ぶ楽しい生活の進展(生活指導の充実)
- 健康で安心・安全な生活

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
命はひとつ (安心・安全)	2	<p>①命を大切にすることと、安全に関することを全校に発信していくために、全校集会を全校で体育館でできるようにし、安全に関することを、毎月集会で発信するようにした。</p> <p>②「いのち」を大切に、思いやりにあふれた安心できる落ち着いた学級・学校をつくるため、児童指導・支援を充実させる。</p> <p>③防災意識を高め、「自分の命は自分で守る」を実現するために、自らが主体的に動く避難訓練を実施する。</p>	<p>①全校集会が全校で体育館で行えることになり、命の大切さや安全に関することを全校児童で共有することになったことは大きい。すべての教員が同じ思いで指導できるように歩調をあわせることがこれからの更なる課題である。</p> <p>②学校が楽しいと感じている児童、楽しく通っていると感じている保護者が8割を超えている。また、支援が必要な児童にも目を向け、安心できる居場所づくり(リソースルーム)の整備にも取り組んだ。</p> <p>③新しい学校防災計画と訓練のバージョンアップを図り、より実践的な訓練を進めた。校舎が耐震・耐火性の高い構造のため、地震の際は教室避難へと変更した。また地震後に火災の発生を想定した訓練を実施し、体育館避難への訓練を実施した。課題として、迅速な避難児童の確認と火災後に体育館からどこへ避難するかも検討を進めていく。</p>	<p>①各グループで、命を大事にする実践をする。授業や学校生活で取り組めることをカリキュラムの中で位置づけていく。</p> <p>②引き続き、安心できる居場所づくりに努め、積極的・予防的な児童指導を一層充実させていきたい。いじめや支援等への対応は、学年やミーティングメンバーを中心にチームで対応していく。</p> <p>③避難児童の確認についてはさらに精度と速さを上げていく。訓練は繰り返し続けていくことで、実際に起きた時に訓練通りに動けるように繰り返し進めていく。今後も防災教育に力を入れ、改訂を重ねながら安全性を高めていく。</p>

<p>自律 (自ら考えて行動する)</p>	<p>1・3</p>	<p>①自ら考えて行動できる児童を育てるような授業作りを心掛けて生きた。教職員も自分で考えて行動できるようにグループ会議の充実をはかった。</p> <p>②個に応じた指導の充実や、一人一人が参加し、深い学び合いができる授業づくりを推進し、実践した。また、単元計画を見通した授業づくりの研究を進め、児童自らが考え、目標に向かい学習する態度や思いを表現する力の育成を目指した。</p> <p>③委員会や係、当番をはじめ児童の主体的な取組を行い、自律性を伸ばし、協力してやり遂げる態度を育てる。</p> <p>④「早寝、早起き、朝ご飯」を合い言葉にして児童・家庭へ啓発を行い、基本的な生活習慣づくり、食育を推進する。</p>	<p>①自ら考えて行動できる児童を育てようという教職員の意識が高まってきている。全校集会や特別活動を通して学校が変わってきていることを実感している。一方で、教職員間においてまだ温度差があるのは事実であるので、教職員集団全体で取組が広がるようにカリキュラム作りをする。</p> <p>②個別最適化の指導を意識しながら、「学び合い」を中心とした学習活動を進めた。フレームリーディング(読みの手法)等の研修をふまえた単元計画を見通した授業展開により、児童が教材に興味をもち、自分の考えをよりわかりやすく発表できる実践に取り組むことができた。高学年になるにつれて積極的に伝え合いの形式に参加できない児童もいることは課題としてとらえている。今後も児童が主体的に自身の思いを表出できる授業づくりの研究の推進、そして、より自律的に学ぶ姿勢を育成できるような環境を整えていくことも大切である。</p> <p>③児童会や委員会活動を中心に学校全体で行う取組を推進することができた。児童が発案した様々な活動を企画・実施することで、児童や教師の「自律活動」への意識がさらに高まった。児童数が多いので、一つの取り組みに時間がかかること、事前の準備の綿密さが必要になるので、今後も教師の協力(みんなを取り組んでいくという意識)が不可欠となる。</p> <p>④心の安定に直結する「早寝、早起き、朝ごはん」について、意識を高めることができるよう教育活動の中で充実を図った。各月の生活目標と関連させ、全校集会での呼びかけや委員会でクラスに呼び掛け、各クラスや廊下に掲示することにより、意識を高める取り組みを進めた。また、食育については、給食時間に栄養教諭から放送で食育指導を行い、より健康的な生活が継続できるように進めている。</p>	<p>①各グループで、自ら考えて行動する授業を考えて行っていく。どのような授業を行えば自ら進んで学ぶ児童を育てることができるのかを授業研究を行うことで教師自身も学び合える時間を作る。</p> <p>②今までの研究成果であるデジタルとアナログのベストミックスを有効に活用した授業づくり、フレームリーディング(読みの手法)などを応用した教材研究と学習展開の実践を来年度も進め、「深く考え、思いを表現する子を育てる」授業研究をしていきたい。引き続きこれらを意識した研究を推進することはもちろん、学年や各クラスのレディネスをしっかりと把握し、さらに学習効果を高められる実践を教師間でも協働的に行っていきたい。</p> <p>③今年度の実績を踏まえたうえで、「自律的な活動」を大切にしながら、児童の実態に合った取組を続けていきたい。</p> <p>④「早寝・早起き・朝ごはん」の重要性については理解しているが、現状として、達成率はどの学年も低い。家庭と連携を図りながら、伝えていく。</p>
---------------------------	------------	---	--	--

<p>共生 (認め合い・尊重し合う)</p>	<p>2・3</p>	<p>①教師間がお互いを認め合い、尊重し合えるように、学年、グループのコミュニティの充実を目指した。</p> <p>②自分の考えを伝え合う授業を通して、お互いの思いを知り、認め合い、協力する態度の育成を目指した。</p> <p>③多様性を認め合い、児童一人一人の良さを生かす活動機会を設ける。</p> <p>④運動が好きになる体育指導を展開するとともに、体力づくりのきっかけとなる集会や行事を実施する。</p>	<p>①児童のみならず、学校に関わる人たちが、お互いを認め合い、尊重し合うためには、お互いを知ることから始めなければならないと感じている。</p> <p>②校内研究でも追求してきた、自分の考えを伝え合う学習活動を通じて、児童がそれぞれの思いを知り、お互いを認め合い、自身の考えを深める場面が見られた。伝え合う力にはまだ個人差があるので、今後も個別最適化の学習を意識しつつ校内研究を進め、互いを尊重し合う姿勢を高めていきたい。</p> <p>③インクルーシブな環境づくりに取り組み、年間を通して「ふわふわことば」や「人権の樹」など良さを認め合う活動を実施した。「言葉」にスポットを当てて、学年の中で共有することもできたので、さらに家庭にも取組の様子などを知らせていけるとよい。</p> <p>④自己の体力に関心をもたせ、児童の実態や学年の様子に合わせた充実した体育指導を展開した。「ドッジボール大会」や「なわとび週間」の実施は、自己の体力に関心をもたせるきっかけにもつながった。</p>	<p>①児童もさることながら教職員集団もお互いを認め合い、尊重し合える集団となるように研修などの中で集団の組み合わせを変化させることで様々な人たちと関われるように工夫していく。また学年やグループから出た新しいアイデアが実現できるように応援していく。</p> <p>②一人一人の教育的ニーズに寄り添いながら、子どもたちが互いを認め合い、協力し合える学習の場の設定や取組みを行ってきたい。</p> <p>③一人一人の教育的ニーズに寄り添いながら、児童とともに考える活動を模索しながら、それぞれの良さを生かしたり、認め合ったりする活動に取り組んでいきたい。</p> <p>④児童の学びをより一層充実させるために、児童の実態に合わせたカリキュラムのアップデートを進めていく。また、より効果的な体力向上につながる活動を計画していく。</p>
----------------------------	------------	---	--	---

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

今年度は、学校職員の校務に地域コーディネーターの役職を配置し、地域学校協働活動推進委員と連携し、地域と保護者のネットワークである「みなサポ」による学校ボランティアや「みなサポまつり」を開催したことは、昨年度以上に地域の教育力を活用できた。学校運営協議会委員も、入学式や運動会、みなサポまつりや卒業式など学校関係者として一緒に創り上げていった。その中で、児童が生き生きと活動している様子や、変化に対応しつつ、様々な教育活動に力を入れて取り組んでいることについて、高く評価していただいた。「学校教育目標」の周知については今年度の課題としてあがり、次年度以降の活動に期待したいとの声があった。また、地域の教育力を積極的に取り入れることについて評価をしていただいた。しかし子ども達が地域で活躍できる場の創出について、今年度も課題を感じている。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

昨年度に引き続き、「命はひとつ」「自律と共生」を重点目標としてきた。そして、すべての教育活動をこの目標に向けて行ってきた。特に自律的な学び、インクルーシブ教育や防災については、次年度さらに教職員が意識を高めて取り組めるように研修を重ねていきたい。また、保護者・地域と連携し、すべての子どもたちが安心して楽しく過ごせる学びの場となる学校づくりを目指したい。